



早稲田大学 立川稲門会会報

2004年11月14日
第9号
発行 立川稲門会
事務局 立川市曙町2-32-3
カバ 立川302
鷺海会計事務所内
電話 042-527-6191
FAX 042-524-9570

大学の商議員懇談会に出席した時のことである。私と隣り合わせになったある学部の教授がこんな話をされた。

今の学生は成績はいいが精神的に弱い子が多い。大学に入って受験から解放される。やっと周りを見る。周りにいる友達とどうつきあっていいかわからない。悩みと向き合えない。カウンセラーに相談する。親を呼ぶ。昔、大学が学生の親に連絡することは考えられなかったが、今はそんな時代になった。

その中で、大地に足をつけているなと感じる学生が二人いた。どんな子ども時代を送ってきたのかと訊いてみた。一人は子どもの頃佐渡に山村留学をした。今までとまるで違う生活の中に身をおき、自分で遊びを作った。もう一人は父親の転勤により海外で暮らした。自分と同年代の子どもがホームレスであったり物乞いをしている現場を見ていた。二人は共に、子どもの頃の体験が今の自分の原点であると、話したという。だから、とその教授は強調する。他者との交わりの中で自分の存在を確認できるような体験学習が必要だと。私も同感だった。

高齢社会となり、私たちは圧倒的に長い時間を生きなければならない。学校にいる時間は一生の何分の一になるだろう。旅に出たりあるいは日常の生活の中で駅のホームに立つ時、日本には数多くの駅があるだろうに、自分は一生のうちいくつかの駅を降りるのだろうと考える。膨大な言葉が詰まった辞書を引きながら、引かずに終わる言葉はどのぐらいあるのだろうかと思う。出合わない風景の方が、出合う風景よりは

子供や若者を応援 夢育む人とのかかわり

魅力的な大人めざそう



志村順子副会長

るかに多いことを知らされる。

辞書を引かなくても、日常の会話の数は少なくなっているのではないだろうか。便利な世の中はコミュニケーションの機会を奪っている。口をきかずに買物ができるし、生活もできる。

いま、学校では意図的に遊びや会話の体験をし、体を動かせば心が動くことを実感させている。以前より自分の感情をうまく処理できない子が多くなっているからだ。自分が歩きたければ授業中でも歩きまわる。自分の言ったことが通らなければ机を叩き外へ飛び出す。人を傷つける言葉を平気で乱用する。学校が背負われているものは大きい。ひとりひとりに時間をかける丁寧な対応が必要なのに、それができない現実がある。先生と子どもの一対一の関係と、子ども同士の関係が必要なのに、後者の関係が育ちにくい。交わりをもつことに戸惑い、億劫になっている。

大学生や地域の人が授業に入ったり、子どもが地域の職場で学んだり、外部評価を取り入れたり、学校の内容も少しずつ変わってきている。子どもたちは言葉で伝え合う表現力をみがき、専門家の話に触れて生き方を教わり、自分の将来の姿や夢を重ねることができている。今はこうしたたくさんの生身の人とのかかわりが必要なのだ。

子どもにとって幸せなことは、魅力的な大人が周りにいることである。これから社会に出る子どもや若者を、いろいろな形で、見守り応援ができたらと思う。

(S40独文)

第31回定時総会のお知らせ

- 一 日時 平成十六年十一月十四日(日)
- 二 会場 立川グランドホテル
- 三 会費 懇親会費八千円、年会費三千円
- 四 会次第 総会 四時半
- 五 活動報告 平成十五年事業報告
- 六 報告 平成十五年度監査報告
- 七 会則改正(八ページ参照)
- 八 平成十六年度事業計画
- 九 広報委員会報告
- 十 商議員会報告

講演 五時半
演題 「世相を斬る―取材の裏側―」
講師 島田敬三氏(ペンネーム・溝口 敦)
昭和四十年政経学部卒、市内砂川町在住。平成十五年に「食肉の帝王 巨富をつかんだ男、浅田満」で第二十五回講談社ノンフィクション賞などを受賞。
講演には一般市民も参加します。
懇親会 六時半

志村順子副会長

立川市富士見町四一六一

TEL (042) 532-1061
FAX (042) 532-1062

親睦深め母校支援

原則を再確認し前進



木村辰幸幹事長

立川稲門会は今年創立三十一周年を迎えます。ふと私が学生の頃(今から二十年前ですが)、『会社の寿命は三十年』という、当時多くの学生に読まれていた本を思い出しました。会社組織は栄枯盛衰を繰り返しながら成長を遂げ、三十年経つたところでも多くの会社が市場から去って行く。そこには血も涙もない自由主義経済の市場原理があるだけで、努力を怠ったものは淘汰されていく。読んでいてそんな印象を受けたのを思い出します。

稲門会も営利を目的にはしていないものの、一つの組織に変わってありません。この会が昨年三十年を迎え、次世代に向けて活発に活動が続いていることを思うと、草創期からの諸先輩方のたゆまぬ

平成15年11月8日の第30回定時総会では、創立30周年を記念して祝賀懇親会と講演会を催した。総会は午後5時から立川市のグランドホテルで開いた。会員47人と近隣稲門会・大学関係者、招待の現役学生など80余が出席。鷺海量良会長は冒頭の挨拶で、30年の歴史を振り返って多くの会員や関係者に謝意を述べ、就任以来二年の取組の報告を述べるとともに、今後の会の活動の展望を述べた。井原徹理事らが祝辞を述べ、大学の現状報告をした後、議題の事業報告(木村辰幸幹事長)、会計報告(高橋芳樹副会長)、監査報告(伊藤暢子監査)の順に報告された。伊藤暢子監査は「沢田恒夫経理事代行」役員改選議案(木村幹事長)などを審議し承認した。役員の変更は、佐竹茂市郎氏が副幹事長に、波多野進(S38理)、米田典弘(H6社)今村英之(H9理)の4氏が新たに業務幹事となった。平成15年度の

努力の賜であることに、あらためて感謝申し上げる次第です。

私は常々、組織が未永く発展して行くには、何においても確固とした理念を持ち、その理念を皆が共有し実現に向けて努力していくべきだと思えます。会社の寿命は三十年と言われながらも、長い歴史を刻み続けている会社は、その企業理念を皆が忘れることなく共有し合っているのだと思います。

地域稲門会である立川稲門会が今後発展して行くには、第一に「会員相互の親睦を深めること」第二に「私たちがお世話になった偉大な母校への支援を行うこと」第三に「地域社会への貢献を行うこと」、これらの基本的理念を会員が意識的に持つことが重要だと思えます。会員相互の親睦を深め

事業計画(木村幹事長)では①会員すべのための稲門会を目指し、会員相互の親睦を図るための会合、同好会の活動を積極的に推進する②母校の事業、特に一五周年記念募金を強力に支援する③近隣稲門会との交流を活発にする④会員相互のコミュニケーションや外部への情報発信の手段として、年一回の会報の充実を図り、一方では

創立30周年記念総会盛大に

平成15年11月8日

立川稲門通信を随時、機動的に発行する⑤現役学生との交流をはかる一を確立した。6時から盛大な祝賀会を催し、総会に先立つ午後2時半から立川市の女性総合センター・アイムにOBで写真家の浅井慎平さんを招いて「浅井慎平語る、歌う」を催し、超満員の二一〇人が集まった。共催した立川市教育委員会の志村順子委員長立

ること、これは何といつても出て楽しい会、出席して良かったと思える会にすることです。世代の違う卒業生が、ノスタルジーに浸れるのは母校を称える共通のきなきまな歌であり、また現役学生諸君との交流であると思います。地域稲門会としては、まず多くの校友に参加して頂く機会を提供していくことです。今まで母校と疎遠になってしまっていた校友が何かの

学生時代の不足補う

三グループに積極参加



私が立川稲門会に入会したとき、竹村からのお誘いがきっかけでした。たぶん三十代の前半頃、だったと記憶していますが、総会の出席者では、私が一番若かったと思えます。先輩に気さくな方

川稲門会副会長)との対談形式で進行。浅井さんは、写真家の心構えや創作のポイント、日常の物の見方、教育のあり方などを率直に語った。さらに、白石信とナレオハワイアンズとの掛け合い演奏では、自らウクレレを弾いてハワイアン4曲を披露し喝采を浴びた。講演会と演奏の模様については広報委員会が速報態勢を取り、懇親

きつかけで稲門会活動に出合い、そこから母校を思う気持ちが芽生えれば、第二、第三の理念の実現へと自然と結びついていくと思えます。

この会が今後、四十周年、五十周年に向けた発展のため、そして愛する早稲田大学の発展のために私自身もこれからいっそう頑張っていくかと思っています。(S63・社会学)

私は、大学では、社会科学部に通学していましたが、入学時からすでに職場(税務署)に勤めており、夜間通学の身でした。家も遠かったため、大学時代には、サークル活動などもせず、友達もあまり持てませんでした。でも、大学の雰囲気や同年代の学生には好感を持っていましたので、立川稲門

長、同河原崎副会長、小林茂多摩会長、笠原昌夫副会長、酒井陸紀八王子副会長、石川好男福生会長、森田雅幸副会長、中倉伸明同会計幹事、沖倉強同会計監査山本和幸同会員、小室修一府中副会長。立川会員 井川芳栄、今村英之、内野正男、榎本信行、江藤英彦、大岩泰世、大上保信、鷺海量良、加賀美和夫、亀井裕子、木村辰幸、佐々木等、柴香里、佐竹茂市郎、志村順子、鈴木一廣、鈴木関善造、高橋康夫、高橋芳樹、竹内雅美、田中清、田中保忠、樹中良、坪井久夫、富樫隆、長野長正、中村克久、中村信、中村政弘、錦織文良、野宮彬、裕寛、波多野進、原健一、肥後昭一、廣瀬俊夫、古川剛久、本田欽一、丸本和代、宮崎浩、目黒智一、森山勇柳澤一郎、酒井恒夫、米田典弘、平野、水野唯、石原論、中井研友、鈴木萩緒、福田智子、濱田睦。

会での付き合いは、学生時代に成しえなかった大学生活の一部の穴を埋めていただいているものと思っています。

現在、高橋康夫さんから誘っていた「千代田の野鳥と自然の会」(最近、欠席がちで、ご迷惑をかけております)、中村信さんお誘いの「猿若會」、小林和雄さんお誘いの「たちかわ多文化共生センター」などで稲門会以外の活動も、先輩のご指導で続けさせていただいています。

今後、稲門会の活動には積極的に関わらせていただき、私の楽しみを増やしていきたいと思えます。(S51社会学)

近況報告がてらの自己PR版を提案

米田典弘

卒業以来、生まれ育った立川の稲門会に、いつも楽しく参加させて頂いております。

地域稲門会活動としては、いつも出欠葉書に書く近況報告のデラック版のようなものを作成してはどうかと思えます。

立川稲門会には、優秀で、良くも悪くも個性的な人々が集結しているのですから、年に数回集まり酒を飲んで校歌を歌って帰るだけではもったいないと思えます。

一人当たりA5ほどのスペースを割り振り、自分の好きな事を書いて頂きます。「帆船の模型製作でしたらプロ中のプロです。何でも開いて下さい!」とか「家庭菜園を始めたのですが、何からやればいいのか、誰か教えて下さい」とか。

この人にこういう趣味があったのかと再認識したり、今まであまり話した事がなかった会員と、共通の趣味の話で大いに盛り上がりがあったとか、新しい交流が生まれるのではないかと思います。(H6社会学)

150人集い第二回大会

三多摩支部 多彩な催し

第二回東京三多摩支部大会が十月三日午後四時から、あきる野市「あきる野ルピア」三階ホールで開かれた。第一部はあきる野農協ホールで白井克彦総長が「早稲田大学の

新展開」と題して講演、その後、あきる野ルピアで第二部の懇親会を開いた。講演に先立ち、今年の主幹稲門会の福生、あきる野を代表して石川好男支部長（福生会長）が総合挨拶をした。第二部の懇親会では赤見市郎副支部長（あきる野会長）が抱負と決意を述べた。

議事を中心である校友会活動の現状と展望、百二十五周年記念募金については、小林栄一郎・校友会代表幹事が詳細に説明した。手塚善雄・東京都二十三区支部長（千代田会長）と田中雅夫・あきる野支部長が挨拶した。

創立百二十五周年記念募金寄付金の目録を石川支部長から白井総長に贈呈して懇談に入った。

記念イベントは、昨年同様にニューオリンズジャズクラブが出演して軽妙な演奏を披露、主催者心づくしの郷土芸能「羽村市の東町祇園ばや

し保存会の演奏の披露があった。次期主幹稲門会の昭島、青梅を代表して昭島の内田順也会長が受諾と決意を述べ、校歌を斉唱して六時半に閉会した。

立川稲門会からは、鷺海量良会長、高橋芳樹・志村順子両副会長、佐竹茂市郎副幹事長、大岩泰世顧問、錦織文良・広報委員長、亀井裕子幹事の七人が出席した。（広報委員会）

開発の特許相手の世界

創意と工夫を巡る駆けつけ



長野 長正

最近の特許戦争と呼ばれるような激しい商品開発競争の話がほとんど聞かれないような気がする。販路拡大と

か市場独占とか、商品販売の話が多くなると特許係争のような技術開発競争はまったくなくなってしまうと感じます。

我が国の特許出願は毎年二十万件程で、実に世界一、米国の十倍にもなるが、商品化されるのは米国の十分の一で極めて少なく、相変わらず技術導入が多い。日頃から特許出願に励み、その技術開

発で製品や商品を業としている我々からみて不思議な気もするが、経営陣も含めたその企業全体の社内評価が不当に低く扱われる傾向が強く、開発者が途中で諦めてしまつたためとも考える。

最近大きな話題となった青色発光ダイオードも、当初は日本中の電機業界の評価は非常に低く、技術者は米国の大学教授として頭脳流出してしまつたし、東芝が四十年ほど前に開発した磁気テープのヘリカルスキヤン方式もアンベックスでVTRとして実用化され、この技術はビデオ技術の殿堂に名誉の名を連ねている。東芝は十年後になって東芝アンベックス社を設立し、このVTRの技術を逆導入したのだ。さらにほぼ十年ほど過ぎ、ソニーのβとビクターのVHSが基本技術ではなく、市場獲得競争で大きな話題を提供したこ

とにつながつている。今はIT技術であらゆる情報が瞬時に世界を駆け巡る時代だが、一つの特許技術が国家の経済競争の種にもなりかねない現状を外務省はどう考えているのだろうか。一介の小企業のおやじとして、身近な小さなテーマを基にせつせと特許を取得して世のため人のためになる仕事を少しでも出来ればと日ごろあくせくの私ですが、十年程昔、ヤマハの電気自転車に負けない安いものを作ろうと一年ほど試作車を開発したり「特許技術は私の方が優れていると、今でも考えている」ペースメーカーの充

電回路は医療器メーカーの共同研究者が途中で定年退職で外れてしまつてポツなど、失つたチャンスは数々で、多少儲けさせてもらつたり、忙しく仕事をさせてもらつたものはごく僅か。でも時計の振り子や小さな人形がふらふら振れているムービング

運動部の強化

金かかる悩み

中村 克久

早稲田大学には体育部が四十三部あり、明治三十五年に創部した野球、庭球、漕艇、剣道、柔道、弓道がもつとも古い歴史をもっている。

直近の創部はラクロス部で平成十三年。我が米式蹴球部（アメリカンフットボール）は昭和十四年という日米開戦前夜の創部だ。十一月十四日の総会にあわせて早稲田スポーツの今季の総括と言われたが、シーズン真っ只中の体育部が多いので、勝負とは関係のない興味ある部の内部事情を書いてみたい。

我々早稲田マンにとって、正月の箱根駅伝は年の始めの美酒に酔いたいところ。駅伝に勝つには良い選手を毎年平均して入部させて鍛えることが良いことは誰でも周知のことだが、当校には伝統があるがゆえにそうは行かない事情がある。

キャラクターを見ると、開発当時のガッツが楽しく蘇つてる。昨今ではこの簡単な回路の生産はほとんど中国に転出してしまつたがまあいいさ、次は世界を相手した大きい特許でも考えてみようか、などと気宇壮大に考えている。（S34電気）

競走部は大正三年の創部。短距離、中距離、長距離、投てき、障害、跳躍部門を網羅し、かつこれら各部門に錚々たる先輩諸兄がいる。長距離の駅伝に特化した選手補強に難しい事情がある。もつとも箱根では予選会でインカレの成績がポイントされ、昨年は三・二四加算され予選会を通ることが出来たのだが。

私たちが昭和三十六年卒業の各体育部卒業生で数年前に「早稲田スポーツを強くする会」を設立、大学に提言した。その要旨は、①有給専任コーチ制度②有力選手の優先入学を挙げた。野球部などを除き、ほとんどの体育部が卒業生の手弁当で監督、コーチをつとめているというのが実情である。対抗する有力校は職員として処遇。フットボール日本一の立命館大学は十五人の専任コーチ（もちろん有給）を擁している。奥島前総長は「百二十五周年には全運動部を日本一」と発破を掛けたが、運動部を強くするには金が必要のも事実である。（S36政経）

カラコルムの山旅楽しむ



高台の村長宅から見るシムシャール本村。左下は15歳の高校生

伊藤 暢子

標高3200^{メートル}で3週間 村民から歓迎攻め

カラコルム山脈はパキスタン北部地域にあり、世界第二の高峰K2を始め、世界の屋根といわれている。この夏、九年振りに四度目のカラコルムを三週間楽しんだ。

今回の目的地はシムシャール村だ。インダス川の支流フンザ川の東方五十^{キロ}の岩峰鋭く草木も生えない大峽谷を溯行すると、忽然と現れる緑豊かなオアシス、そこがシムシャールだ。八年前に読んだ踏査報告書「シムシャールからパミールへ」が私のこの村への憧れの発端となった。

三月、旧知のフンザのガイド・アミンさんから、今夏シムシャールにジープ道が開通すると朗報が入った。そして八月二十日三組の夫婦六人が、成田を発つて五日目にシムシャール入りを果たした。村は標高三千^{メートル}にある。高低差三、四百^{メートル}段丘に、本村を中心に十程の字村から成る百四十戸千八

百人の大きな村だ。女性の姿が少ないが、これは五月から十月まで四十五戸の女性、幼児、老人が標高四千五百^{メートル}夏村に行っているからだ。ヤク二千頭、羊、山羊多数を引き連れバター、チーズを作り籠の町村に売るので。

私達は本村と真中の果樹園付きの古い民家に泊まった。実は村では旅行者は泊めない決まりだが、アミンがここに親戚が多く馴染みが深い事で可能だったのだ。

村では毎日食事の接待攻めに遭った。最終日は遂に五力所も重なり、私達はホイホイとすべてお受けし出掛けた。村の医者からも声が掛かった。彼はナシヨナルトラストの責任者で、ジープ道が出来て一気に観光地として俗化して行く村を厳しい規制で守ろうとしている。ゲストハウスは村から離れた所にしか建てさせない。旅行者の質を見て村内を案内するかどうか

かも彼が選別するという。

医者は「たまに登山家が一、二泊して行くだけの何もないシムシャールに日本の皆さんが一週間も滞在し、村の伝統を理解し尊重して下さったことをうれしく思います」と言った。このドクター、どうやら我々の素行を観察していたようだ。それで最後の日に、招待するに値すると選別してくれたらしい。

という事で日本人の印象を良くしてきたので、皆さんもこの「カラコルム嶺天上の村・シムシャール」に行ってみませんか。

近年の旅では、モンゴル・アルタイ山脈、チベット・五千二百^{メートル}のチヨモランマ(エベレスト)ベースキャンプなどが印象に残る。ミャンマー・インレー湖・シャン族のナフー村、こういうアジアの田舎も良かったなあ。

(S 35文・S 50文研修)

江藤英彦



レでボランティア 音楽療法をサポート

定年後の自由な時間を使って何か楽器演奏を身につけてみたいと考え、ウクレレを始めることになりました。このアプローチであれば、必ず歓迎されます。その訪問時には日程調整、施設利用者の要介護度、人数、演奏環境の下見をし、演奏時間についての先方の

分達の好み・趣味の押しつけにならないように配慮です。あくまでも高齢者の方々の音楽・娯楽療法のお手伝いであることを自覚し、皆さんが喜んで歓迎参画してくれる選曲演奏に徹します。得意なハワイアンは二の次とし、昔懐

かしい唱歌や流行歌を中心に構成します。必要な歌集もパソコンで作って提供します。演奏に合わせ、皆さんの口が開き、声を出して手拍子を打ってくれば、そのボランティアは成功、というわけ

(S 36法)

人材育成一筋に30年

企業研修に時流の変化

俊夫 昭和三十九年に卒業し、約九

う。日本企業が皆んなで力を合わせ努力し、自分も企業も成長しながらやりがいを見い出そうという風土が少なくなってきた。その結果が中高年の自殺増加に結びついてい

れには岩壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ」というものである。これは山形三千雄著「日本人と思想」が、その思想の深さと歴史的価値付けがなされた。今後は専門の車販売業界を中心に、誰もが持つさまざまな悩みを聞かせてもらい、少しでも企業と人の発展のお役に立ちたいと願っている。

(S 39・文)

乗り越え 再確認



原 健一

ウクレレ音

高年齢者施設

レレ教室でレッスンを受け、そこそこの演奏力を習得してきました。ウクレレの楽しさを介して、周囲の方々とも楽しみを共有し、少しでも社会のお役に立てばと、高齢者施設訪問ボランティアを続けております。

このボランティア活動は、どのような段取りと内容に留意しているかに触れてみます。まず市の高齢者施設の中から訪問したい施設を選び、その施設を訪れ、ウクレレボランティアを売り込みます。その際の要点は、先方の施設の音楽療法をお手伝いすることを訴え

都合も聴取します。さらに、高齢者の方々にウクレレ伴奏による合唱に参加してもらうよう、歌集の確認など事前の打ち合わせが肝要です。

次の仕事は、当方の仲間との調整です。現役で働いている人もいるので、無理のない日程調整が重要です。また訪問の前に最低一回は集合し、訪問時の留意点を徹底し、演奏の予行演習もやります。

さて、訪問当日には早めに先方を訪れ、音響と舞台など会場調整をして開演に備えます。あとは施設職員の協力と高齢者の方々の熱心な参画を促し、円滑に演奏が進行するように司会にも傾注します。最も大切なことは、素人芸の自

「旧跡を歩く会」快調

新発見に会員ワクワク



中村 克久

今年三月のゴルフ同好会のコンペの後で、折角こうして集まっているのに年二・三回のゴルフで終わるのは残念という声に、数年前から毎日五キロほど歩いている私がウォーキングを提案したのが発端だった。

当稲門会には、吉沢恒夫さんが会長をしているハイキング同好会があるので、さっそく趣旨を電話し合図でやりませんかと話したところ会員の高齢化と体力の問題で事実上活動をやめているとお話だった。こうして「歩く会」は一月一回程度、時間にして二時間ぐらい近隣の名所旧跡を主に歩

うという趣旨で始まった。

第一回は地元柴崎町(旧柴崎村)で参加者十三名、第二回は谷保天神から矢川を参加者十三名、第三回は玉川上水をたかの台まで参加者九名、第四回引込み線跡を歩くは参加者十名という実績である。

神社仏閣については鈴木茂夫さんの驚くべき博學に感嘆、玉川上水では大岩泰世さんの都の清流復活方針により流れを取り戻したところなど興味深い話を聞くことが出来た。今後予定しているところは十月十五日の武蔵五日市憲法勉強会のほか狭山丘陵一帯、新選組ゆかり



廣瀬 満

年ほど車のセールスをし、そのメーカーの研修センターの講師になった。社員ではないので、多様な業界の一流企業から中小企業まで、社員研修から管理者まで、一流企業には優秀な人材が入っているの、動機づけ的なことはやらない。ほとんどが業務や専門知識や技術だ。アメリカで主にやっている方法である。

一方、中小企業は動機づけがまざり大切だ。最近はずくに成果を出させようと、実務だけを重視する傾向が続いている。その結果、勝ち組と負け組がハッキリしてしま

る。経営者の、社員人間をどう思うかの理念の差で大きな違いが出てきている。

色々な企業で早稲田のOBに出会うが、私が四、五十代の頃は、先輩は先輩の私をかわいがり、色々とお世話して下さいました。しかし後輩は、私が思っているほど先輩として扱ってくれない。自分が至らないとは思いつつも少し寂しい気持だ。同じ早稲田に学んだ仲間として親しみを感じ、もっとかわりたいとの心を持ちたいと思

っている。この仕事をする私の気持の支柱は、師の森信三・早大法学部教授の言葉「教育とは流れる水に文字を書くような果てない業だが、そ

に出来る限り歩きたいものだ。

どなたでも大歓迎です。ご参加をお待ちしています。参加希望者は中村克久「090・3133・8356」まで。

(S36政経)

いやはや気がついた

ら町の語り部をやっています。聴衆が気の置けない稲門会の仲間だけに、ついつい調子に乗ってしまいました。これからもみなさんとの交流が一段と深まることになるとは思っています。

はいえ、私はこの町の原人の子孫ではないのです。三十七年前に住みついた移民の一人です。この町の扉を開くと、実に豊

手術の強 がんの絆 妻の40年

今年五月に妻が大腸癌の手術を受けた。進行状況、手術後の経過などを気にしながら不安な毎日を送っていた。幸い手術は成功し、平穏な日々を送っているが、夫婦として四十年も過ごして来た歴史の絆が、こんな非常時にも大きく影響していることをあらためて噛みしめている。

妻の手術は今回で四回目、危険度も七年前の心臓の手術と比べれば難しいとは思わなかったようだ。本来の明るい性格に加え、私が胃癌の手術から完全に回復していることもあつてか、あえてそう見せたのか、家族の主婦不在時の生活を心配していた。入院の前日も私に電気釜・洗濯機の使い方、風呂やトイレの掃除の仕方、食事の栄養のバランスなどについて細かく指示し、深夜にもなつた。

種々の検査をし、手術の日を待つ日々は辛かったと思うが、本来の明るさを失うことはなかった。病人の家族として、こんな楽なこととはなく、毎日の見舞いが辛いと思つたことは一日もなかった。七年前もそうだったが、入院から退院までの日々を「妻の入院日記」として記録し、本人の体調や心の動き・家族の生活を正確にまとめた。いま読み返してみても、常に家族のことを案じている妻の姿に驚いている。早期発見でなかったから執行猶予の状態だが、全快を信じて妻とのこれからの人生を歩んで行きたい。

(S34政経)

街の語り部楽しむ

博識、名調子の鈴木さん

いやはや気がついたら町の語り部をやっています。聴衆が気の置けない稲門会の仲間だけに、ついつい調子に乗ってしまいました。これからもみなさんとの交流が一段と深まることになるとは思っています。

はいえ、私はこの町の原人の子孫ではないのです。三十七年前に住みついた移民の一人です。この町の扉を開くと、実に豊

かな「話」が広がります。立川、つまりわれわれの暮らしているこの町のあれこれを訪ねることは、われわれのアイデンティティをたたくことでもあります。原人も移民も融合した立川稲門族として、現場で町の中の「話」を一つひとつバラバラの話としてではなく、近世から今日に至る歴史の枠組みの中でとらえてみると、楽しさは一段と深くなります。多くのお待ちしています。

(鈴木茂夫・S29露文)

母校のナレオ・ハワイアンズでウクレレを弾いて以来、ハワイとのかわりが深まった。それからずっとこの初夏の島に興味を持ち続け、現地訪問はもう三十回近くになった。

その歴史と現代の姿について読み調べを進めるうちに、白人からの差別と偏見と過酷な労働に耐えてきた日系移民の歴史に感動を覚えた。何よりも日系移民の運命に決定的な影響を及ぼしたのが、一九四一年の祖国日本による真珠湾奇襲攻撃だった。この大事件は、ハワイだけでなく、アメリカ西海岸の日系移民を一段と激しい人種排斥に追い込んだ。

恥を知ること忘れ、希薄な責任感の下で、行動原理を自己の利益に置く人間の多い日本人とは対照的に、彼らの歴史は感動的な大河ドラマだ。

ついに三年前、早稲田大学人間科学部の森本豊富教授の推薦で日本移民学会に入会した。やがて広報委員長の錦織文良さん(S38政経)も共鳴し、一年半前、やはり森本教授の推薦で入会した。

さて、去る六月二日、ハワイ大学ヒロ校の本田正文・準教授が日系二世世であるルース・藤本さん(86)とユキエ・田中さん(82)を伴って母校の所沢キャンパスを訪れた。二人

とも心温く元氣凜冽とした可愛いおばあちゃんである。百五十人の学生を相手に移民体験を語り、今や現地日系人のアイデンティティの大きな柱として、白人もビジター参加する「ボン(盆)ダンス」を「炭坑節」のメロディに合わせて何度か教室内で実演し、聴講した学生諸君の度肝を抜いた。学生たちは、率直で人懐っこいハワイの日系おばあちゃんに大変な共感と興味を示した。

ハワイに惚れて40年

日系移民史追い現地交流30回
専門学会に参加し研究深める



鷺海 量良

テーマは「グローバリゼーションと移民―新田移民の相克」である。自由論題では、たとえば「ハワイ島・ヒロ市の日本人移民町と「SUZANMI」(報告者は人間科学部大学院修士二年の吉田裕美さん)など十一人が報告した。

この授業には錦織さんと私が参加し、夜は所沢の居酒屋で本田先生と二人のおばあちゃんをもてなし、助手、院生も加わって歓談した。

さらに六月二十六、二十七日の二日にわたって、やはり所沢キャンパスで第十四回日本移民学会年次大会が行われた。遠くアメリカは西海岸から、またハワイからは前述の本田・準教授がラリー・キムラ教授とウイリアム・ウイソン教授とともに参加した。大会

だった。本土のアメリカ人によって消されかかっていたハワイ語を復興しようとして、学者やボランティアが数十年前から言語の一つひとつを古老から聞いて確認しながら、それを子供たちに教え、語り合う教育を実践している。驚くべき息の長いセオリー重視の運動である。八千四百語をまとめたハワイ語辞典もでき成果は広範に出始めている。夜の懇親会では、かつての早稲田大学ナレオ・ハワイアンズのOBバンド

連句、俳句に興味と意欲

『猿若』会亭で修練

私が会亭をつとめる猿若句会は、この春五周年を迎え記念句集『自選十句』を発行するとともに、『記念色紙展』を開催しました。この会には立川稲門会々員では佐々木等・佐竹茂市郎・原健一・(中村克久)休会中)が参加しています。また、他にも高橋均(大宮稲門会々長)を始め、三人(与野、三鷹、中野)の稲門が居ります。

句集『自選十句』の中から、さらに代表句として自選してもらった一句をCGで色紙化したものが「色紙展」でした。因みに、その句は「グラウンドの声はつらつと雲の峰」等「火事の後姿に残す大銀杏 茂市郎」「こめか雨蜘蛛の巣白し庭の朝



中村 信

健一「鱗雲押し寄せてくる大漁旗 呆信」

句歴を披露すると、高校時代にはすでに信の俳号で「俳句」や

『青玄』等に投句・入選、それが縁で寺山修司らが当時の学生俳人を結集した「牧羊神」にも参加しました。しかし、早稲田に入学する頃には興味は変わり、早稲田詩人会に入会しました。卒業後も詩作は続けましたが、俳句とは無縁の三十年間でした。

ある時、ひよんな経緯から連句に興味をもち、何人かに呼びかけ《友多加座》なる座を組み素人連句を巻き始めました。座員が増えてきたところで、『猿若座』(現在、休座中)も主宰してみました。猿若座とは江戸三座のひとつ中村座の前名で、中村座とつづける

と、立川稲門会ではお馴染みの一瀬潤子さん(平成2年英文)率いる早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会の女子学生十人が華やかにフラを披露した。このグループは、今年四月に大学公認サークルとなったばかりである。ちなみに、懇親会では、森本教授の指名と実行委員会の推薦で私が総合司会をつとめた。二日目はシンポジウムで、この大会のテーマである「グローバリゼーションと移民」で意見交換した。

私はこれで四度目の参加だが、報告者はいずれも女性が多く、今回も十八人中十二人を女性が占めた。また、報告者も参加者も学会の重鎮クラスから大学院生まで多様で、その中に錦織さんや、いや錦織さんは清泉女子大学で教鞭を執っているのでもともな口であるが、私みたいに異質なメンバーがまれに加わり、全体で百人を超す参加者で盛大な学会だった。なお、今回は私たち二人とも所沢パークホテルに一泊する意気込みで臨んだ学会だった。

最後に、これまで学会の先生方と懇談していくうちに分かったことだが、私と同じように、日系人移民史に感動を覚えてこの道に入った先生方がいかに多いかを付記しておきたい。皆さんも気軽に参加して下さい。私たちがご案内します。(S37政経)

二〇〇四年の出品作品 三回目の歴史ある美術展です。



当初は国立在任の三人の絵画愛好OBが発起人となってスタートしたが、その後は近隣在住者にも輪を広げて、内容も絵画だけでなく最近、写真、書、陶芸の作品も加えて現在、約二十五人のメンバーによる多彩な内容の総合美術展となっています。三年前から女性OBの参加を得、一段と賑やかなお祭り行事となりました。毎年、約三百人の来場者を迎え、稲門のOBおよび友人、知人を交えた親睦会となっています。会長は本宿太市氏です。(S31政経)

メンパーは25人
13年の歴史誇る
国立稲美展
国立稲美展は国立市内のギャラリイで桜の花の咲くころに年一回開催され

ビザラお届け!
磯ビーエスエス
尾上 研 児 (H2・理工)

立川市青梅店(0428)2411500
ビザラ福生店(042)5311300

立川駅のお弁当
株式会社エヌ・アール・イー中村亭
中村 克 久 (S36・政経)

立川市柴崎町二一三三
TEL(042)5241201
FAX(042)5261260

人材育成・社員研修
㈩オフィス広瀬
中 村 信 (S38・文)

立川市曙町二一六一〇
TEL(042)5231331
FAX(042)5231331
Eメール kaptama@dream.com

立川市西砂町一六六一三
TEL(042)5312687
FAX

村野税務会計事務所
村 野 俊 輔 (S57・政経)

立川市柴崎町二一四九村野ビル2F
TEL(042)5218950
FAX(042)5218951

多摩中央葬祭株式会社
森 山 勇 (S37・政経)

立川市錦町四一八三
TEL(042)5251123
FAX(042)5251034

立川市錦町四一八三
TEL(042)5251123
FAX(042)5251034

初秋の越後・月岡温泉 稲酔会一泊バスツアー



北方文化博物館で伊藤文吉館長を囲んで=9月27日

第20回の立川稲酔会を9月27(月)・28(火)の両日、初秋の越後・月岡温泉(新潟県新発田市)で開き、15人が参加した。会場は同温泉では最も由緒のある割烹旅館「いま井」で、かねて料理、酒とも一級との評価が高く、一行は贅を尽くしたもてなしを堪能した。稲酔会としては初の一泊旅行。バスで往復し、途中で名所、旧跡を巡って楽しんだ。27日は北方文化博物館(越後屈指の大地主、伊藤邸)と水原町の瓢湖博物館では、第八代当主の伊藤文吉館長が自ら案内して下さった。28日は、高田早苗、天野為之、坪内逍遙とともに早稲田四賢人の一人といわれる市島謙吉の生家(豊浦町)「著名な日本酒メーカー」「菊水酒造」(オーナーの高澤英介氏は早稲田校友会新潟支部長、評議員、商議員、ラグビー部OB)を経て、落谷虹児記

念館、清水園新発田・伊藤家(所有)、足軽長屋(同)、会津八一記念館を訪ね、最後に新潟ふるさと村でお土産を買って帰路に就いた。
◇参加者敬称略古川剛久(代表世話人)、伊藤暢子、亀井裕子、駕海量良、高橋芳樹、中村信、廣瀬俊夫、長野長正・まつ子、錦織文良・雅子
桜山隆一(国立前会長)
内田順也(昭島会長)
小室修一(府中副会長)鈴木正明(府中常任幹事・事務局長)
**発足から七年
佳境の稲酔会**
得歓当作業 ウレシイトキニハ染シモ
斗酒聚比鄰 ラヲアツメテ稲門ノヤカ
盛年不重来 若イトキハモウコナイ
一日難再晨 一日二度目ノ朝ハナイ



古川 剛久

二人の先輩と出会い、 監事監査基準に目標



高橋 芳樹

私の人世の節目、節目で忘れられない出会いはたくさんあるが、最近の十年間で、私の人世を思いがけない方向に変えた二人の早稲田の先輩との出会いがある。
そのうちのお一人は、現在実践女子学園の常務理事である高野金三氏である。氏との最初の出会いは、私が早稲田大学の経理課職員であった頃で、二十数年前、当時国に代わって私学に融資を行う私学振興会(現日本私立学校振興・共済事業団)の頃であり、その後はお会いすることはなかった。

工業大学の理事長をしておられる藤田幸男先生である。早稲田時代は先生とは特別の親交はなかったが、四年前に日本私立大学連盟が監事会議を発足させて、私もその運営委員として参加することになった。その運営委員会の委員長に就かれたのが藤田先生で、やはり二十数年振りの出会いであった。
運営委員の一人として、年一回開催する二泊三日の監事会議のお手伝いをしながら、運営委員会の中に出された二つの小委員の一つを任せられ、先生の指導を頂きながら、昨年は「監事のあり方」をまとめることが出来た。今年には「監事監査基準」の設定に取り組んでいる。

八年前、私がリタイアした次の年の私立大学連盟の新年会で久しぶりに出会い、それがきっかけで私は今、実践女子学園の監事を努めさせて戴き、思い掛けない経験をさせて戴いている。
もうお一方は、早稲田大学商学部名誉教授で、現在芝浦

このような体験は、リタイアした時には全く予期していなかったことで、私に新たな生き甲斐を与えて下さったお二人に大変感謝している。
私の拙い体験の一部を披露させて戴いたが、これからも素敵な出会いを重ね、人生を豊かにしていきたいと思っております。
(S 34商)

及時勉勵 シメルトキハ精一杯
歳月不待人 時ハスギユク、行列ハ墓
ご存知陶淵明の時です。末の四句は旧制中学一年生当時(昭十八年)、勉学にいそしませる教訓と受けとめていました。これは間違いで、「勉勵」とは、行楽に精出すことだそう。もう少し早く気がついていれば、もっと楽しく飲めたのに、と残念です。
(S 28商)

で八年、通算十六回、一度も中断することなく開催してきました。このことは、当会員の深い親睦の結果です。ゴルフメンバーは皆多士済々。個人的に魅力ある人たちが、技術的にはそれぞれですが、みんな本当に楽しくプレーをしています。この会が一番楽しい会だ」と喜んで参加されています。スコアは二の次、参加ながら当会メンバーの平均ハンデは二二です。「百を切りたいなあ」という程度の人たちの集まりです。ぜひこの魅力あるゴルフ会のお友達になられることをお勧めします。
連絡先 裕寛(〇四二一五三六一
一二五二) 江藤英彦(〇四二一五七四一
八八三五) (裕寛 S 36理工)

<p>電子制御機器の開発設計 技術コンサルタント</p> <p>株式会社 エルテック</p> <p>代表取締役 長野 長正 (S 32・理工)</p> <p>東大和市中原一三三 TEL (〇四二) 五二六三三四 FAX (〇四二) 五二二二八八</p>	<p>建築設備設計事務所 三井企画株式会社</p> <p>代表取締役 小林 和雄 (S 47・理工)</p> <p>立川市錦町四一五一 TEL (〇四二) 五二六三三四 FAX (〇四二) 五二二二八八</p>	<p>労働保険事務組合 経営者多摩福栄会 立川市砂町五九九七</p> <p>代表取締役 木村 幸辰 (S 63・社会)</p> <p>TEL (〇四二) 五三三〇七〇 FAX (〇四二) 五三三〇七三</p>	<p>立川市曙町二一三二 サンパレス立川三〇二号</p> <p>代表取締役 篤海 量良 (S 37・政経)</p> <p>TEL (〇四二) 五二七一六一 FAX (〇四二) 五二四一九五七〇</p>	<p>新宿区新宿一〇一三 太田紙興新宿ビル八階</p> <p>代表取締役 榎本 信行 (S 33・法)</p> <p>TEL (〇三三) 三三五四九六六一 FAX (〇三三) 三三五四一三三二四</p>	<p>TKYO大樹法律事務所</p> <p>弁護士 榎本 信行</p> <p>(S 33・法)</p>
--	--	---	---	--	--

宮野 孝雄 (S 57・社会学)

宮野 孝雄
立川市神野二五七番地三四
TEL (〇四二) 五二六三三四
FAX (〇四二) 五二六三三四
TEL (〇四二) 五二六三三四
FAX (〇四二) 五二六三三四
E-mail: takao-miyano@nvc.hatche.ne.jp

【会則改正】

平成16年9月9日に行われた役員会の審議を経て、次のように会則改正を行うこととした。この改正案は11月14日の定時総会に提案し、承認を求める。

現行	改正案
【目的】 第3条 この会は、会員相互の親睦を厚くし、地域社会に貢献するとともに、共に、会員と早稲田大学に協力するものとする。	【目的】 第3条 この会は、会員相互の親睦を深めるとともに、母校早稲田大学の事業を支援することを主な目的とし、かつ、地域社会への貢献に務めるものとする。
【役員の種類】 第5条 2. この会に顧問、相談役および名誉会長を置くことができる。	【役員の種類】 第5条 2. この会に顧問および相談役を置くことができる。
	【補則】（新設） 第15条 この会は政治および宗教活動には一切かかわらないものとする。

<改正の趣旨>

第3条 立川稲門会は早稲田大学校友会の傘下であり、同規則第2条（目的）に「本会は会員相互の親睦を厚くし、校友の組織を充実させるとともに、会員と早稲田大学との関係を密にし、連携を強化することで、早稲田大学の事業を援助する。」とあるように、会員相互の親睦と早稲田大学に対する事業の援助の二点を明確にしており、地区稲門会の存立の原点もこの二点にあり、「地域社会への貢献」を従たる目的として、目的の優先順位を変える必要があること。
 第5条第2項 立川稲門会存立の目的は親睦団体であり、その性格はボランティア団体であることを鑑み、役職を不必要に置く必要はないため、簡素化を図るもの。
 第15条新設 第3条の改正趣旨にあるように、立川稲門会存立の目的が親睦団体であるとすれば、当然のこと、しかし、非常に重要であることを確認的に規定するもの。

立川稲門会の本部役員
 任期満了に伴う立川稲門会選出の本部役員人事と、今年の稲門祭実行委員会が次の通り決まった。
 ① 商議員(三人) 任期四年(二〇〇四・七～二〇〇八・六)
 鷺海量良会長、志村順子副会長、大岩泰世顧問、鈴木健一相談役(本部推薦)。
 ② 代議員(四人) 任期四年(二〇〇四・七～二〇〇八・六) 高橋芳樹、副会長、木村辰幸幹事長、錦織文

良幹事、広報委員長、亀井裕子幹事
 ③ 二〇〇四年稲門祭実行委員長(五人) 亀井裕子(実行副委員長)、福引、販売・記念品担当、木村辰幸幹事長、佐竹茂市郎副幹事長、錦織文良幹事、広報委員長
 ④ 校友会本部幹事 (監事本部) 鷺海量良会長(監事本部)
 〇〇四・七～二〇〇八・六(柴香里副幹事長)
 ⑤ 校友会本部監事 任期四年(二〇〇四・七～二〇〇八・六) 鷺海量良会長

事務局便り

オーブンカレッジは
 定年後の駆け込み寺は 佐々木等
 「大隈講堂の鐘がおおらかに鳴り響くの聞こえ、この大学に居る半世紀近く、学生時代のクラス文集に書いた拙文である。恥ずかしいやら懐かしいやらです。この「不思議な魅力」を求めて母校に再び通うことになることは夢にも思っていなかった。中高年を

▼一年ぶりに会報第九号を会員の皆さまにお届けすることができた。今も錦織文良広報委員長(昭和三十八年)と中村信広委員長(昭和三十八年)の名コンビに多大なご尽力をいただいた。中村信広委員ご自身の会社を開放し、なおかつ「ご息の大(はじめ)君まで巻き込み、損得抜きで貢献していただいた。」
 また、会報の制作費は、前記お二人のボランティアに加え、名刺広告をご覧のように十三名の会員による協賛広告と好沢恒夫幹事(昭和四十三教育)と佐竹茂市郎副幹事長(昭和五十一社)からの協賛金によりまかなうことができました。心より深く厚くお礼を申し上げます。
 ▼年一回発行の会報の隙間を埋め、会員の活動状況などの情報を発信する手段として始まった立川稲門会通信も一年半が過ぎた。この通信も前記お二人の「もちろん大君も含めて」で「熱意とボランティア」まで続いている。ただ、いかにせん、この通信は、通信費をまかなえるだけの余裕資金がないため、新年会や親睦会、納涼パーティなどの行事に参加した会員のみ配布しているのが現状だ。しかし、会計担当の高橋芳樹樹副会長(昭和三十四商)の創意工夫により、今後は立川稲門会会費を納めている約五百十名の会員には、年二回郵送するメドがたつた。年内に発送する予定である。初めて手にする方はぜひ楽しんでほしいものだ。
 ▼月日が経つのは早いもの。昨年三十周年を迎えてからもう一年。事務局の仕事は、大学、校友会本部、近隣稲門会からの様々な情報のやり取りに

対象にした「オーブンカレッジ」に「昨年春からいそいそと出かけあります。退職した初めての年は時間を潰すのに大変で汗をかいた。即ビールを飲み、これではダメだ。第二の人生は無理と、連日人生を悩むこと。「針の筵」であらう。何か「メリハリ」の人生を母校の「オーブンカレッジ」が駆け込み寺でありました。当初は「イタリアルネットワークサン

加えて、立川稲門会運営上の種々雑多作業が加わる。ときには私の事務所スタッフの手を借りながら、本業の合い間を縫って、あるいなしながら、例年同様、この一年間も多忙で充実した一年であった。
 ▼今年、第三十一回総会の大きな目玉は、会則の変更である。内容はこのページに掲げたとおり。特に第三條は稲門会存立の基本的理念を明確にしたことだ。①校友の親睦を図ること②母校の事業への支援の二つを主な目的とし、その上で地域社会への貢献にも取り組むことを明示した。母校があり、現役学生が存在し、また、母校が組み立てた稲門会が成り立つ。この稲門会が私たちに必要最小限の条件と目的を私たちが必要最小限の条件としよう。
 第五條から名誉会長の削除、第十五條の政治および宗教活動とのかわり、排除の改正の趣旨にあるように、稲門会存立の基本的理念に沿った改正、もしくは新設規定である。
 ▼母校の百二十五周年記念事業募金は全体的に見て低調である。ちょうど現時点が募金開始から三年半を過ぎ、折り返し地点だが、目標二百億円に対し現在七十億円、達成率は三三・五%だ。立川稲門会はどうかといえば、目標額一、九七五万円に対して、七九五万円、目標達成率四一・六%。これを上回る支部は、宮崎支部の一〇・五%だけだ。さらに東京都の四六稲門会のうち生数の二一・七%について第二位である。また、立川稲門会実績のうち六八・七万円は年会費三万円のうちの千円を募金に充てた平成十一年度から五年分の累積である。大口の法人および個人の方々は勿論、金額の多寡を問わず応募して下さった方々、会費納入を通じて募金された方々に心から深い謝意を表したい。(鷺海)

21世紀の後輩を支援しよう

母校への愛校心が
 新しい早稲田をつくります
 創立125周年記念事業募金にご協力をお願いします
 お申し込みは事務局
 (042-527-6191)か
 直接、大学
 (03-3204-0125)へ

編集後記
 ▼この会報九号には、多さんに披露し、親睦を深めようという趣旨です。制作行程の突然の変更で時間が切迫しましたが、執筆者は全員、締め切り日に間に合わせて下さすまいと、お陰様で順調に編集作業を終えました。工事を全面開放して下さった中村信さんと、一人で全紙面の制作をやって下さった長男の大(はじめ)さんに感謝しきりです。(錦)
 ▼予定変更があり、原稿締め切りが急に早まったにもかかわらず、皆さん締め切りを守ってくれました。お陰様で、編集がスムーズに進行できました。また、編集作業中に激励や差し入れを頂きありがとうございました。(信)

広報委員会 錦織文良(委員長)
 中村信(副委員長)、志村順子、伊藤暢子、高橋芳樹、長野長正、原健一、藤瀬俊夫、鷺海量良

ス」と「シルクロード」その文化と生活。二年目からは高橋悦男先生の「俳句鑑賞と実作」です。そして、いま俳句は十七文字の自由詩。何かと連続する自分史を思い、日々苦勞の正直な自分史を、現役の学生数五万弱、中高年の会員数三万、これからはますます少子化、高齢化が進んで行く。そしてまた戦後のベビブームの団塊の世代がもうすぐオーブンカレッジの母校が「底を貸して母屋が取れるのではないか」と、心配で夜も眠れないのです。(S 37 西洋史)